

文字の話



経営学部准教授

Amann Clemens

記号とは人に瞬きする合図から交通標識まで、絵文字から漢字まで人間に意味を伝える幅広い世界です。その中でも文字とは特別なもので、ことばが音によって表す意味、つまり語、音節、母音、子音など（言語の単位）を目に見える単位に変えて表すのです。

文字はことばの両面である意味と音（発音）、両方を表すことが出来るでしょうか？実は、意味を表す方が力強い文字またそれとは逆に音を表す方の強い文字、などいろいろの種類があります。

文字ではない記号から説明しましょう。😘とか😍は感情的な意味は伝えますが読み方はありません。文字という文字は、ことばの意味と音の間にはっきりした対応関係を結びます：「ハート」とは「こころの感情」の意味と音を表す文字ですが、それに対して絵文字になるといろいろあります：♥♥♥♠などですが、これらは絵文字として意味を表すのですが読み方（音）を持っていません。例えば、遠く離れている好きな人にハートを込めた便りを送りたいときにどんなに♥♥♥♠を並べてみても文字による表現力には敵いません。顔文字の方は絵から離れて本格的な文字への途中にある、文字の成り立ちの一つの段

階とみればよいです。（^_^）

人類の文字歴史から見ると、やはり絵は文字の出発点でした。世界中のいくつかの文明で人は絵に基づいて文字を作り始めました。最初の文字はまず意味を中心に具体的なものを表す絵から表意文字 — たとえば、古代エジプトの象形文字「𐀀」あるいは中国の漢字「口」 — つまり絵で表現出来ない意味 — 「愛する」、「考える」 — を表す文字に進みました。

絵の表す物事から離れて、意味を表す単語への道、つまり表意文字から表音文字（音、読み方を表す文字）への発展は非常に複雑なものでした。漢字の場合は文字の一部だけを使って、音だけを表すかな文字が日本で発展しました。エジプト文字の場合も、いくつかの象形文字は次第に音を表す役割を果たすようになって、そこから数千年前にアルファベットへの発展が始まりました。この発展の過程は次のイラストでよくわかります。



左から右へ：エジプトで使われていた象形文字「牛」が単純化されて、今の中東の国々に伝わり、

そこにいたフェニキア(現在のレバノン)人によって音だけを表す文字として使われるようになりまし。さらにフェニキア人から古代ギリシア人がその文字を取り入れて、子音だけを表すフェニキア文字 — フェニキア語では母音を表す必要はなかった — に工夫して、一部のフェニキア文字を母音の多いギリシア語に転用して初めて本格的なアルファベット、つまり、母音も子音も表す表音文字を作りました。(日本のかな文字も表音文字ですが、基本的に子音母音の組み合わせで音節を表現します。に・ほん・ご・に・び・っ・た・り・あ・い・ま・す。)

このアルファベットは、さまざまな形で世界中に広がりました。その中でも特にローマ字が普及しました。そのため言語学者には習得時間の長い表意文字よりアルファベットの方が合理的で価値があると主張する人もいます。確かにアルファベットで読み書きできるまでの時間は比較的短いといえるでしょう。(読書する程度によって大きな差がありますけれど)。そのかわりに表意文字である漢字の方は意味をはっきり表しているため、視覚に働きかけます。

表意文字、表音文字のどちらを使っても我々にとって文字の意味と読み方は一致してことばになり、情報を伝える上で欠かせないものです。

歴史上、長い間読み書きという技術は社会の中で別のグループに限られていました。そして情報、記録を伝えるためだけではなく、そのグループの情報として支配的な効果もありました。しかし印刷技術の発展によって本が一般の人の手にも入るようになってから、情報へのアクセスは民主化しました。そして、IT技術によって文字は書籍の範囲を超えてデジタルな形で読めるようになりました。「IT革命」と呼ばれた文字の電子化は本当に革命的でしょうか？電子化した情報は相変わらず文字とことばによって伝達されますが、根本的に変わったのは、情報のグローバル化と文字とともに増えてきたビジュアルな絵による部分です。

しかし、山ほど大きくなった情報を握って自分のものにして相手に伝えたり相手から得たりするために、つまり情報を生かすことに役立っているのは相変わらず一瞬で消えてしまうことばの意味と音を記憶して時間と場所を問わずに伝えてくれる文字ではありませんか？

変化を楽しむ場所

教育学部准教授

平野 晋吾



5歳からスイミングスクールに通っていた。ピチピチの海パン姿でバタバタと走って行ける距離にあった屋内プールには児童センターが隣接していて、幼なじみとふたり、水泳が始まるまで2階の図書コーナーに陣取っては、それぞれに本を読み耽った。その“おっちゃん”にはけん玉や折り紙の楽しさを教えて頂いたが、ここでの本との出会いと、思春期まで続いた濫読が、恐らく「今」

を支えている。

人見知りで泣き虫だった私にとって、冒険や謎解きや伝記の世界は、時に逃げ場所だったけれど、本は友だち関係の潤滑油だったし、会話の手本だったし、あらゆることの先生だった。この先生は決して考えを押し付けず、自ら考える余地を与えてくれた。図書コーナーの片隅で、最初に「エルマーのぼうけん」が大好きになった。文字を目

で追いながら空想し、竜の背中に乗って思索する、
答えがなくてもよい時間。

大学生になってそれまで以上に通うことになっ
た図書館は、少し苦手な場所だった。最初そこは、
時間に追われながらコトバと格闘し、答えを探し
だす苦行の場だったが、3年生のゼミで世界が変
わった。先生と読む専門書や論文には、それまで
の私にとって“無”の時間帯でしかなかった睡眠
や、単なる“線”のみで情報が表現される脳波が、
実に慎重な分析と言葉選びの過程を経て、文章や
図表に変換されていた。眠りに関連する神話や小
説、戯曲や絵本などに読書の幅も広がっていき、

“苦行”が不要な時も図書館に足が向くようになっ
た。そしてやはり、そのどこにも答えはなく、少
しずつ確からしくなる仮説と、新たな問いが示さ
れているのだという確信が、本と向き合う時間を
より豊かにしてくれた。

本は他者の体験や実践や実験や空想が言葉や文
字や絵や音声となって脳を刺激し、読者の中で何
らかの変化を起こすきっかけを与えてくれるのだ
と思う。図書館は、答えを求める場所というより
は、格闘しながらも、自分自身の変化を楽しむ場
所であってほしい。役割を終えて更地になった児
童センターに感謝を込めて。

図書館よりお知らせ

- ◆より安全に図書館をご利用いただけるよう、防災、防犯、施設管理を目的として、本館・分館ともに防犯カメラを設置しました。利用者の皆様の安心・安全のための設備となりますので、ご理解をお願いいたします。なお、貴重品は手元から離さないようご注意ください。緊急時対応のため、録画したものは保存されます。取扱いについては、個人情報保護に十分配慮いたします。
- ◆本館の1階と地下には電子ホワイトボード・プロジェクタが設置されています。設置場所は次ページの図でご確認ください。また、分館のグループ学習室にも電子ホワイトボード・プロジェクタが設置されました。利用したい方は図書館カウンターでお申込みください。
- ◆本館ワークステーションのパソコンが増設されました。また、分館4階駅寄りのコーナーもワークステーションになりました。現在、本館に103台（1階39台・地下64台）、分館に60台ございます。申込み不要ですので、どうぞご利用ください。
- ◆今年度から新しい入退館ゲートが設置されています。入館・退館の際には、ひとりずつ学生証をタッチしてゲートを開けてください。学生証を忘れたときや、ゲートが開かないときは、カウンターにいる館員にお申し出ください。

入館ゲート

緑色のマークに
学生証をタッチ

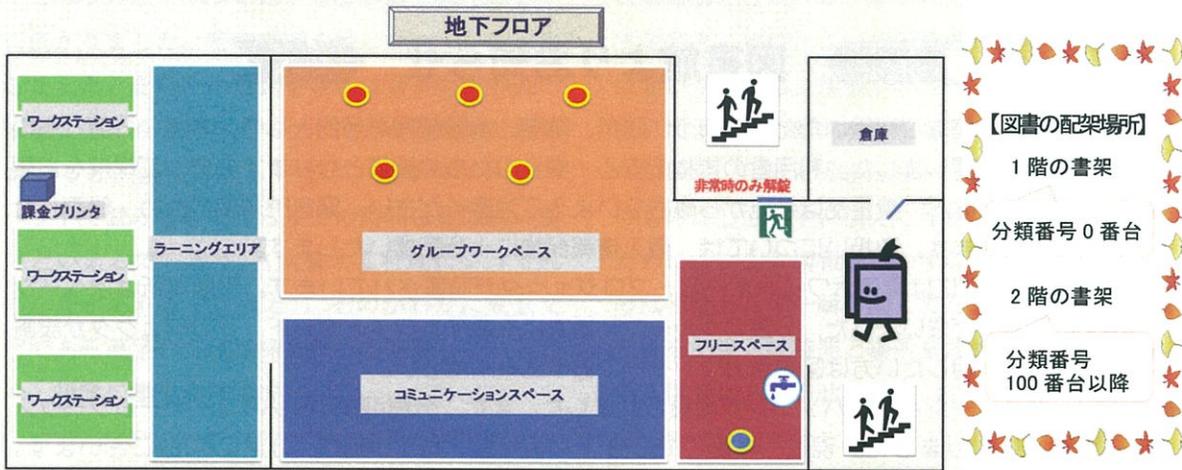
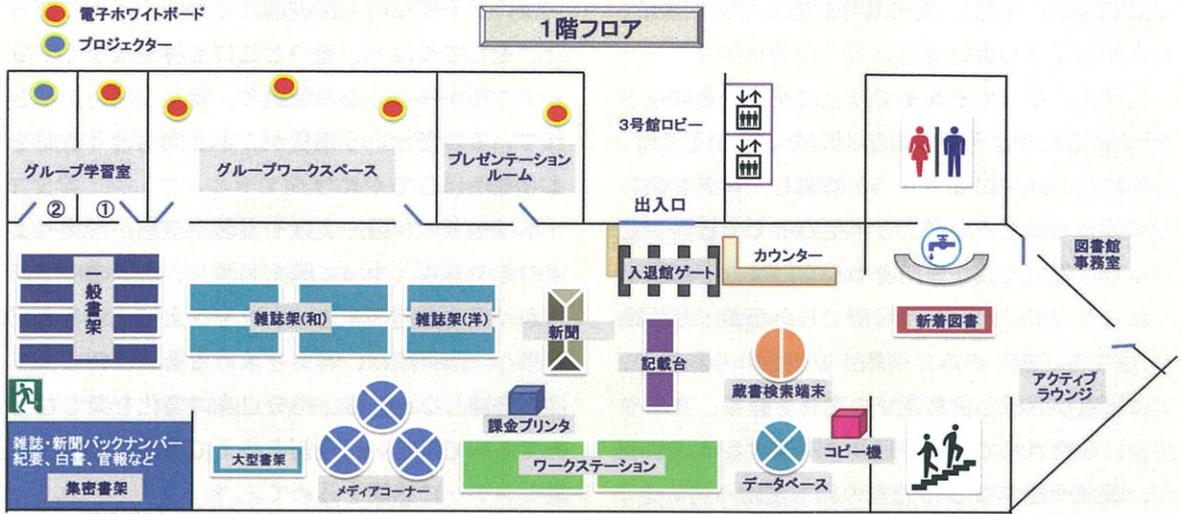
退館ゲート





本館1階と地下のフロア略図です。昨年の水害から復旧後、大幅に変わりました。

- 電子ホワイトボード
- プロジェクター



◆ 1階の仕切りのないエリアと地下のワークステーション付近、2階の全エリアはサイレントエリアです。静かに集中してご利用いただくための場所です。



◆ 1階グループ学習室などの仕切られたエリアや地下では、グループワークやプレゼンテーションの練習ができます。ホワイトボードやプロジェクタを活用してください。

ささやき

本館では昨年の水害以降、復旧作業をすすめてまいりましたが、今年4月からすべてのフロアと各種サービスが利用可能となっております。各フロアのレイアウトが変わりましたので、図書の配架場所や各エリアの利用方法など、何かわからないことがございましたら、館員までお気軽にお問い合わせください。

平成28年10月25日 発行
 編集 図書館だより編集委員会
 発行 白鷗大学総合図書館
 〒323-8585 栃木県小山市大行寺1117
 ホームページ <http://hakuoh.jp/library/index.html>
 印刷 株尚文堂印刷所